



特別  
12  
5248  
2



西村兼文著

隨見錄

戴

目録

- 一 駿野真和尚寫經之事
- 一 澄海真人元開之事
- 一 貝多羅垂之事
- 一 善光朱古寫經之事
- 一 清涼寺大迦葉寺古像之事
- 一 顧野王著玉編之事
- 一 真福寺本漢書之事
- 一 朝野魚養筆蹟之事
- 一 橋在列入道尊教智集之事
- 一 源氏物語六十帖之事

- 一 慈恩寺金剛院之事
- 一 中道上人ハ静ノ子ニアラザル事
- 一 八幡善法律院之事
- 一 楠正城朝臣真蹟之事
- 一 南都般若寺一切經之事
- 一 宋版歐陽文集之事
- 一 楠正行朝臣書蹟之事
- 一 大臣影畫卷之事
- 一 洛東禪林寺之事
- 一 蘇波ノ屏風之事
- 一 長曾我部成親墳墓之事
- 一 大河内秀元遺書之事
- 一 毛利三家風詠之事
- 一 江源佐々貴正統之事
- 一 長俊房林照之事
- 一 武内大臣古木像之事



西京

西村兼文

著

一 鑑真和尚寫經之事

大和国添上郡西之京唐招提寺、竹室ニ開基鑑真和  
 尚ノ筆、紺紙銀泥書、金剛經一帖アリ、堅五寸五寸横中  
 二寸五分七十二折、西面帖ナリ、鑑真和尚ハ天平勝寶六  
 年唐ヨリ来朝、海上暴風ニ逢ヒ大困難ヲ極メ、遂ニ盲目  
 トナリテ来リシナレハ、彼國ニ於テ書寫シテ将来スル処ナルベシ  
 然ルニ銀字ノ劣シモ愛名シセズ、白キハ如何ニモ怪シキ程ナリ、青  
 木故信實氏ト同伴シテ一見セシニ、同氏モイタクイブカリケルハ

尤ナル夏ニテ既ニ今ヲ去ル凡一千百四十余年其銀色ノヤケサレ  
理アラシク或云一千年以前ノ品ニアラズ後年ノ筆ナリト其説  
種々ナリシカ近ク聞ク如クコレハ銀字ニアラズ白金字ナリ故ニ幾  
千載ヲ經ルト雖モ変色スル事ナシト或ハ然ラズ又再考スルニ  
此年代ニシテ白金ノ遺法ヲ知人ナリシヤ若シ此説ノ如クナラハ  
銀字經ノ中ニ白金モアルベキニ他ニ是レ知ナケレハ確ト信シ難シ  
免ニ用不審ナル經ナリ

一元開真人ノ事

東大寺開壇院廊ノ原因及鑑真和尚東征傳繪ヲ畫  
者元開真人ノ如何ナル人ニヤト思ヒ近時淡海公淡海居士

不同ト云ル古書ヲ得タリ此書ニ曰

淡海居士字三船亦曰元開淡海真人近江天皇之後  
錫桿天枝流海源重年歇俗惟尚玄門於聖武天皇  
天平年伏膺唐道璿為恩茲撰開三藏披檢九經真  
俗系錄名言西泐孝謙天皇勝元年有

勅令還俗賜姓真人為刑部大卿起唐學子隆所居家  
不著三畧樂隆有眷屬常修梵行於政事唯禮佛讀  
經兼述真和尚東征傳一卷矣

此ヨリ僧タリシ時戒明和尚將來ノ釋ノ訶衍論ヲ偽論トセシ  
卓見ヲ述フ然レニ總子僧ノ勅ニヨリ俗ニ歸シ刑部大卿ノ大  
官ニ昇リシヲ知ラス漸ク戒壇院廊同ヲ寫セシヲ梅庵高山  
寺ヨリ出テ世人ノ初メテ其能畫タルヲ知リ大和錦ヲ始メトシ

テ其名ヲ譽ケス東征傳画ハ今傳ハズ現在東征繪傳ハ全  
部十二卷ノ中ニ五卷アリテ中一卷ハ繪ナシ永仁年間僧蓮行ノ  
筆タリ廊ノ間ハ二十五言崖及梵天帝親二天王ニテ画凡高  
尚緻密ニ推ナリ今日世上ニアル佛画ノ類ニマラス二十五言崖ノ  
樂器ニ到リテハ今世傳ハカル器ナシトセズ蓋シ博識ヲ以テ画  
ク名ヲ知ラレザリシニヤ

一 貝多羅葉ノ事

貝多羅葉ハ古物中最古トモ云フヘキ品ニテ我朝ハワラサルハ  
鎌ノ印度ニ産タリ其中傳來ニクハ高キハ江別三井園城寺ノ  
智證大師ノ請來ナリ此ノ貝多羅ハ阿難尊者ノ筆ノ由ニテ

丈ケミ長クナリ中或寸五分程ノ真中ニ穴ヲ穿テ重ネタリ林凡  
ニハ細字草体ナリ此ノ同物板本來迎寺ニモ傳來シ同ク  
智證大師ノ請來阿難尊者ノ筆ト云上包ノ一行ハ智證大師  
ノ筆ナリト他ニ見サルハ珍寶無比ノ古物親家ニ在テハ最上ノ  
法物ト云フベク東寺四天王寺ニモアレト遙カニ下等タリ智恩院  
ノ傳來モガシク新古ノ別アルニミテ先ハ同種類トモ云フ又  
和洲唐招提寺ニ傳ルルハ貝多羅葉ハ一種別品ニシテ其  
姿粗ホ烟草ノ葉ニ似タリ丈ケ五六寸中四寸余極メテ葉厚ク  
色ハ薄緑ト黒色ヲ帯ヒタル赤色ノ二種四枚アリ林凡文ハ一寸  
余ノ大字一枚ニ七八字ナリ墨色黒漆ノ如キ光澤アリテ  
字體羅馬數字ノ凡アリ此ノ多々羅葉ハ博ク諸君ノ寺院ニ  
テ搜索スレト他ニ一枚モアルヲ知ラズ林凡書モ阿彌羅帳ヲ初ノ編

タリ作經文の鑑真和尚請來七種法物ノ一ニ位ニテ釈家限リ  
ナキ貴重ト云フモ宜ナリ惜ムベキハ其抄文ハ何經ヲ書タルヤ  
未タコレヲ疑ヒタルヲ知ラズ近時意日雲字ノ流行アレハ遠カラズ  
讀ミ得ル人マルベシヤ幸僧ニ問ヘハ其林文ノ書寫セシ人ヲ知ラ  
ザル程ナレハ其解文ヲ知ラザルハ論スルマテモナシ新古ヲ比擬スレハ  
園城寺末迎寺ノ品ヨリハ唐招提寺ノ方遠カニ古キヲ覺ルエ  
兔三角今一投ト世ニアラザルノ珍葉ナリ

一古寫經善光朱印ノ事

天平勝宝八歲六月廿一日從七位上守大學直講上毛野君三磨  
授本經ノ外ニモ天平勝宝年間ノ古寫經ニタク善光ト朱印

ノ捺押シタルアリ古物家ニ之ヲ善光經ト俗稱シ本田善光ハ  
不持經ナリト云ヒ或ハ善光寺ノ藏經ナリト其說一定ニ難シ  
然レモ何レモ能書ニシテ貴スベキ古經ナリ然ルニ南都正倉院  
淨物中ニ橋丈人ノ木札尼善光ノ木札尼信勝ノ木札各一枚  
アリ斯レハ其尼善光ハ勸進スル如カ或ハ自己カ所藏セシカ兩様ノ  
經ニシテ本田善光又ハ善光寺等ノ憶說タルヲ知ル猶古書ヲ  
搜索セハ尼善光ノ履歷モ判然スベク總テ古ヘ夏ト雖モ其ハ  
心ヲ用ユレハ自然ト其事ノ明白ニ至ルベキ多キモノナリ想像ヲ以  
テ杜撰ノ說ヲナス事勿レ後人ノ笑ヲ招クベシ序ニ曰鎗ハ太平  
記ニ載セテ楠正行住吉障ニ阿間ヲ願初メテ遣ヒシヨレテ記セリ  
世人モ然レ信シタル多ク然ルニ是又正倉院淨物中ニ鎗ノ徳及ヒ  
鐙等數十本アリ目錄ニモ鎗三本ト記載アリ既ニ天平年間ニ



アリ証ナリ其後天下治世永ク續キテ武器ノ利ヲ失セシテ正平  
年間ニ方リ又々其利用ヲ知リテ専ラ戦具トナシタルヤ

一 清涼寺大覺寺古像之夏

嵯峨清涼寺秋迦堂、東ナル阿彌陀堂、南脇殿ニ六尺斗リノ  
毘沙門天王ノ像アリ全身ニシテ至極ノ古像美麗ニテナク  
精工感スベキ、惟作タリ明治十九年六月英人フエノ氏及園倉  
覺造氏ト同伴一覽ス因テ感賞タ、ナラス寶ニ京都府下屈  
指ノ名作ナリト云々干漆ノ上等製ナリ干漆ト云フハ支那唐  
以前ノ製ニシテ其後ハ希ナリト因テ説タリ干漆ハ南部地方ノ  
古刹ニハ見ルルアリ此ノ毘沙門天王ハ因寺ニ於テ弘法大師ノ

作ナリト云ヘ共古卷ノ説ニハ此地ハ古昔ノ名高キ栖霞寺ノ舊蹟ニ  
シテ嵯峨天皇等身ノ沖安置佛タリト宣ナリ此説信ニ近カルベシ  
因テ嵯峨ナル大覺寺宮拜殿ノ東ナル小堂、内ニ小野篁ノ作俱生神  
ノ三像アリ干漆ニテ極メテ奇像ナリ其作ノ不凡ナル事一目ニ  
シテ驚歎スルニ堪ヘズフエノ氏云此像日本製作ニマラス支那  
唐造ナリト篁ノ作トハ寺傳ニシテ古クヨリ云傳フ知ナリト之レ  
他ナラス信ニ篁ハ眞厨ニ通ヒト云フヨリ名付シナルベシ然モ大覺  
寺ノ傳來ニマラス洛東安井ニマリシヲ維新後移ス知ニシテ毘沙  
門天ヨリハ古作ニ見エ殊ニ所ニ破壊シテ保護大切タリヲフエノ氏  
氏ノ説適スヤ否ハ唐以前ノ作ト云フハ信スヘシ

序ニ云 柵尾高山寺ニ秘ス大安寺傳來ノ日光月光ノ大破  
損ノ像アリシヲ園倉覺造氏當時任職錦小路護持氏ニ

乞得テ持得リタリ之モ干漆ノ上等ノ全身像ナリシカ佛工高  
手加納鐵舟氏ヲシテ神ノシノ文部省博物傷ヘ納ノ常備  
品トシテ其製法妙術ヲ人ニ知ラシム

一 顧野王著玉篇ノ事

晋ノ顧野王、著玉篇ハ全部五十卷ニシテ其注書ノ殊ニ詳  
ナル字書ハ今世流布スル処ノ如キ略注ノ書ニ非ス支那ニモ早ク  
絶ヘタルト見エ先年東京ニ於テ有名ナル揚子敬ニ逢フ殊更  
古學家ニシテ金石錄ナド博識並テ著ナシ古書ハ得意ニシテ多  
ク我國ヨリ買求セリ予詒語玉篇ニ及ヒシモ初メハ疑テ系引セザリ  
シカ向山黃村氏ノ新撰ナド柏木探古氏カ所藏セル卷ヲ見テ

初メテ此書ノアルヲ知リテヨリ感歎タナラス遂ニ予ノ及フ限リヲ寫  
シタリ兼文見ル知ニテハ柏木氏ノ秘藏ハ神護景雲年間ノ古  
書ニテ此卷中ノ次壹等ノ最筆ナリ次ニ尾別大須真福  
寺本 栴尾高山寺本 江別石山寺本 及ヒ洛西等持院村  
福井氏藏卷ガ六十四行ナリ此本ニ紀高野山ニ卷アリト聞  
ケド未見也又近年伊勢ヨリ出タルヲ久邇宮殿下ニ納リマロド  
傳聞ス何レノ卷ナルヤイハシク莫シナルヤヲ知ラズ以上漸ク七卷アル中  
ニ福井氏ノ分ハ石山寺ノ中ヲ切斷セシナレハ全卷六本ト云ス  
シ東大寺ノ子院ニ一卷アリシヲ前年見シ事アリト其後ハ不在  
知レザルヨシ又西京ノ書肆竹苞樓ニモ一卷傳ヘアリシヲ明治  
丑六年ノ比長谷人ニ賣却セシヨシナレド是又其不在ヲ失セリ  
惜ヒカ十年ノ古書ノ亡滅スル事豈イタマザラシ哉

一真福寺本漢書之事

尾別名護屋大須真福寺ノ付宝ニ漢書食貨志ノ一巻ハ  
影唐寫本ニシテ高宗太宗兩諱ヲ欠畫ス無比ノ善書ナリ  
哀書ハ阿彌陀經ニシテ在ノ奥書アリ

極樂具書ノ内

願以此切德普及於一切我等今凡生比自共成佛道  
南無阿彌陀佛

保延元年乙卯十二月十二日庚未刻耀光房慧海為祇

園自害 生年七十三

猶以名ニモたノ一行アリ

嘉保三年九月廿六日書寫了

釋慧衆 三十三

奥ニハ戎部ノ印アリ嘉保ハ今ヲ去ル七百九十餘年ノ古書ナ  
リ且ツ書寫人慧衆ハ康平六年ノ壬辰ニテ表書ハ有ナル  
唐筆トハ云ヒナガラタバク畫ノミニテ無年号書者ノ人名  
ヲ失シタルハ遺憾ナカラ漢籍中ニハ珍書ナリ

一朝野魚表食筆蹟之事

古來能書ノ名高キ魚表食筆跡ハ大和國西京ナル藥師寺  
ノ大般若經ニテ六百卷ノ中二三卷不之ス此二三卷世上出テ  
斷截シ其數行ノ裂ヲ以テ古筆手鑑帖ニ入レアル外餘ニ見ル  
処ナシ藥師寺ノ藏經ハ今モ傳エマリテ熟視スレハ一筆ニ非ス善  
惡混汶ノ寫合書ナリ然レドモ魚表食書モマニ文リマワト書ルニ

此余江別板本來迎寺、什宝ニ阿字兼漢字釋奠一幅アリテ魚養食ノ筆ト彌ス此同物ニ并園城寺、北谷法母院ニモアリ理源大師ノ筆ト云フ書凡、似タルヲ以テ斯ク云ナラン蓋シ魚養食ト云ハ誤リニテ理源大師ナルベシト青木故信宣氏モ亦ニ詔レリ通説ト云フベシ古筆家ノ鑑定ニヨレハ弘法大師魚養食理源大師等ハ大同小異ニシテ中ニハ聖武天皇トモ彌スルヲリ何レ共見分ケ難キ書件ナリ大聖武ト彌スルハ書件似タリト雖モ紙質俗ニ灰紙ト稱スル一種別ナレハ殊ニ見分ケ易シ初列長谷能滿院ノ所持セル無涯際持法門經、一卷ハ黃麻紙十六枚一行字數十七字二十四行一投ナレト随分ノ大字魚養食ノ筆ト古ク傳ヘアリ無比ノ善書ナリ又八幡ノ広善法律院ニ無字宝篋經ノ零卷アリ永享三年五月魚養食ノ筆ナル傳來証、奥書アリ此經細字ナレト能書ナリ弘法大師理源大師トハ其筆法大ニ異ナリ此二卷ニ目ニテ誰トハ知らズ其善書不凡ナルニ驚ク大凡有名ナル能書ハ斯クアルベキニコソ

一橋在列入道尊教贊集事

東播法華三味堂壁画大師贊集ト題スル一小丹橋在列入道尊教ノ製作ニシテ桐尾高山寺ヨリ出テ、故山中信天公相ノ白紙ナリシカ弱、没後何レニ散失ニテ其所在ヲ知らズ古書ノニ減スルハ遺憾ナリ以書元慶九年八月、比天台山ニ登リ贊スルニテ其壁画ノ高祖ニ善無畏不空金剛智南岳智者灌頂智威惠威玄朗法然道遠ノ八大師僧伽一行惠果順曉義

真法詮、六阿闍梨、海羅門僧正、聖德太子、聖真和尚、行基、  
僧正、傳教、慈覺、智證、三大師、義真、日證、元定、安惠、惠亮、  
延寂、靜觀、七和尚等、外、雲、洲、刺、史、藤、原、文、隆、下、贈、答、二  
首、三、十、一、今、其、一、首、ヲ、奉、ク

聖德太子

南岳後身為吾儲君、海香冷灑、天花續紛、青龍馭黑  
駒、躡雲知并、身聲普至、分

又柳庵栗原信亮、題跋備考、三、九、如、ク、載、セ、タ、リ

此丹粘葉七紙、許蓋五六百年、上書未詳、其筆者、東塔  
法華堂、謂比叡山也、在列大和、推守、秘樹子、而官為、彈正、大  
弼、祖、又、茂、生、為、上、總、少、曾、祖、又、岑、繼、為、中、納、言、高、祖、又、氏、公  
為、右、大、臣、氏、公、又、清、友、為、仁、明、外、祖、又、以、故、為、贈、大、相、國、正、一  
任、清、友、奈、良、曆、其、又、諸、兄、初、名、高、城、王、為、敏、達、天、皇、四  
子、在、列、實、為、敏、達、九、世、胤、矣、譜、牒、後、法、号、不、錄、也、又、無  
別、除、首、髮、年、月、則、以、標、題、數、字、足、以、補、史、之、闕、文

一源氏物語の六十帖之事

今世上ニアル如ク源氏物語ハ誰レモ知レル五十四帖ニテ古クハ六十帖  
アリシヲ六帖ヲ失ナヒシ歟、建保年間迄ハ全書同揃ヒアリト云ハ  
尤ノ一書同ヲ辨博得ルヲ以テ茲ニ載ス

源氏一品經表白

夫文字之興、典籍之類、其上曰書、分其義、區其也、如素經、言  
陸論、未戒、惠解、之因、逕、開、菩、提、涅、槃、門、闍、公、書、孔、子、語

專人儀亂智道正公臣文字之儀是以內典外典雖異  
悲叶世出世間之正理又尤吏之記事詳百王理亂海安危  
文士之詠物恣烟霞春鳥風月秋望此外有本朝和歌  
夏蓋日域風俗也有本朝物詠之夏古今所製也所謂

後宮

石屋

寢覺

忍泣

袂衣

扇流

住吉

水濱松

末季處

天葉衣

格敷姬

光源氏等也

此物詠者北論古人之義惡北陸先代之旧事依事依人  
皆以雀誕為宗三時三代侯諷雀燕為事其趣雖旦干皆  
唯詠男女交會之道其中光源氏物詠者紫式部之所製  
也為卷軸六十卷立篇目卅九篇言涉内外之典籍宗巧  
男女之芳謠古來物詠之中以之為秀一艷詞甚佳養心

情多揚蕩男女重色之家貴賤事艷之人以之備口  
實以之蓄心機故深忘未嫁之女見之偷勤壞春之思  
冷席獨卧之男披之徒勞思狀之心故謂彼製作之已靈  
謂其披閱之諸人定結輪迴之罪根恙随太宗之後之鈿林故  
紫式部亡靈昔託夢告眾根重受信心大施主禪定比  
丘尼一為救彼為製作之幽魂一為海其見際因之諸人  
殊勸道俗貴賤書寫法華二十八品之真文卷端圖源  
氏一篇一畫為轉煩惱為菩薩也經品之昂我物詠篇目為  
翻妄詠為禪智昔自樂天發願以夜之綺語之詠為讚  
佛乘之因為轉法輪之緣今此比丘尼海物詠教篇艷詞  
之過歸一實相之理為三菩提之用彼一時也共離苦海同  
登之皆尼山序

此表白集之表正治三年、具注曆より日ノ奥書ニハ

建保四年四月十日於北京針小路小屋寫し了

此表白者一聖覺法下之所製也

執筆東大寺尊勝院主華嚴宗末流

法門宗性

生年十五

并河五一古書搜索記云東大寺尊勝院古經藏ニ宗性  
法印ノ記録一檀アリ是ハ安井門跡ヨリ封付有リ付私ニハ  
難見似云々斯レハ世書寫セシ宗性ノ記録ニ志ニ篤アリト  
思ハシキ僧ナリ

一 慈恩寺金剛院之事

丹波國加佐郡志樂庄藤原山慈恩寺金剛院ハ淳和天皇ノ  
沖願天皇年間真如親王ノ沖開基也此親王ハ弘法大師直弟  
求法為ノ入唐尋テ天竺ニハ沖登之路ノ途中ニ於テ沖遷化アリ  
シヲ大智恩寺ノ開基ニ恒寂親王及宗叡僧正等其沖遺骨ヲ  
持歸リ當田寺ノ椽内ニ沖埋葬セラルル沖墓所ハ今ニ石五輪  
アリテ現在ス且ツ此山内ニ三重ノ大塔アリ外ニハ鳥居ヲ三木  
柵ヲ設ケタリ惣テ古製ノ建塔ニシテ表福門院ノ沖再建奉  
行ハ備前守平忠盛ナリ

此塔成就ニ及ヒ供奉會執行ノ時兼向ノ勅使御衣慮ニ用ヒテ  
リト云勅使椽ト稱スル四ノ入子ノ金竹内ニ繪繪抄棟表懸十  
ル信ニ秀衛椽ト稱スルヨリ數層上等ノ古椽十人前アリ  
他ニ是レ如キ精工品ニテ七百五十年以來ノ作トハ嘗ハ九程也

又大塔ノ正面ハ真如親王ノ木像ヲ安置ス當面ノ聖宝ニ平城  
天白王ヨリ親王ニ賜リシト云鬼面アリ木製大形ノ可品ナリ  
去其六年代ハ受取難シ本尊不勤明王ハ相應和尚ノ作脇多  
聞持國ノ二天ハ運慶ノ作ナリト護ノ堂ニハ智證大師ノ作不勤  
尊ヲ安置ス真如親王ノ遺物ハ五種鈴杵沖筆ノ弘法大師  
及ヒ沖正仲仏アリ什物ノ中ニ尤ト思フハ安河法作大日如來五色ノ  
佛舍利唐繪ノ虚空藏六臂如意輪觀音像古銅棟札等  
ナリ弘法大師ノ愛染鳥羽僧正ノ不勤以下數十幅ノ古畫ハ一モ  
評ヲ下スニテモナキ拙筆ナリ有ルル古刹ノ大地ナリト雖モ應  
仁文明以來ノ兵災ニ數度罹リ古物ハ爲有ニ稀シタト大塔ニ  
ハ見ルニ是レ僻地ニアルヲ以テ世ニ知ラレサルナリ又此塔ノ三層ヨリ  
近年発見セシト云フ古代ノ製ナリ其製法今ト大ニ異ルニ参考  
ニ備フベシ扱此寺ハ真如親王ノ沖墓アル事ヲ隱匿シテ其地ハ  
上仰セサルハ蓋シ塚内ノ地ヲ幾分狹上地ニナルト恐怖ルル処ニ  
於テモ京都府下山崎ノ神應寺如キモ龜山天皇ノ沖分骨  
ノ陵墓巍然トアリト是又今ニ隱シ居ルト總テ斯レ惡例ナカ  
ラザルヨシ強テ搜索セハ猶發見スベシ

一中道上人ハ靜ノ子ニマラザル事

中道上人諱ハ聖守大和國ノ三原ナリ憲深僧正ニ密教ヲ學ビ大  
悲菩薩ニ具足戒ヲ受テ修法ノ切躰殊ニ多ナリ中ニ弘安四年七  
月蒙古ノ兵艦太宰府ニ到リ時後宇多天皇ノ勅ヲ奉ヒ實  
才實相律師ト共ニ大法ヲ修シ外患ヲ除キ嚴威禱リ石清



水、社僧等其奇瑞ヲ賞シ更ニ師ヲ請ニテ八幡庄園村法  
園寺ヲ創建シ以テ開基トセシム正應二年十一月廿七日遷化  
年七十三法園寺西北ノ隅ニ塔ヲ建ツ戒壇院凝然嗣法ス  
然レニ中道上人ハ白拍子靜ノ産スル知ニテ源義經ノ子ナリトテ  
訛アリ此ノ上人ノ前件畧訛ハ唐招提寺千歲傳ニ拠ル世書ニ  
就テ考フレハ上人ハ永久三年ノ誕生ニテ義經奥羽落文法三年  
ヨリ三十二年ノ後ナリ其子ニマラサルヲ知レバハ大和國ノ産姓ハ源氏  
トアルヨリ斯レ無根ノ訛ヲナセシ歟又此ノ上人ノ墨跡及ヒ画像ハ今  
モ法園寺ニ多ク傳来ス東大寺戒壇院ニモ残リアリ

### 一八幡善法律院ノ事

當院ハ寶相律師ノ開基ニシテ西ノ寺ト稱シ法園寺ヲ東ノ寺ト  
号シ西寺東寺ニ比ス今ノ本堂ハ五間四方ニシテ石清水八幡  
宮ノ假殿ヲ弘安年中ニ移ス知ニテ六百余年前ノ建築物ト朱  
塗ナリシカ年ニ歴ヲ經テ今ハ漸ク天井裏ニ残リアルヲ見ル本尊ハ  
定朝ノ作座像ニ人ナリ阿保尾在右ノ脇間ニ愛染不動四  
尺余ノ坐像アリ愛染ハ殊ニ名作ナリ或云弘法大師ノ作ナリト  
又同子入愛染ノ小像アリ嵯峨天皇ノ御持念仏ト稱ス精ユナリ  
聖天堂ニ弘法大師ノ作日本三體ト云フ四人有奉ノ天尊ヲ安置  
ス右ノ脇間ニ石清水八幡宮本地仏ト稱スル三人坐ノ宝冠彌  
陀ノ古像アリ精妙ノ作ニアラスト維モ古別由緒ノ伝ニテ千載ヲ  
經タルナリ付宝ニ八相ノ涅槃像行教和尙ノ種子曼陀羅  
八幡大菩薩ノ古画其餘石山ノ山陰叢中ノ寺ニシテ數度ノ

兵部口通レシモ土地ノヨロシキニヤ後城恩寺禪閣兼良公ノ此寺寄  
セラレタリシ御書ヲ寫シ本堂ノ額トシ本紙ハ掛幅トセシナリ  
紅葉ノ大樹多ク寺内ニアルヲ以テ紅葉寺ト稱ス随分ノ雅地  
ニシテ風致ニ富ミタリ

### 一楠正成朝臣真蹟ノ事

楠公ノ筆跡ニ於テ名高キハ楠而四天王寺ノ未來託ニシテ明治  
六年三月彙文故有テ之ヲ親ク見ルニ全部一卷鳥表長尺ノ  
筆法随分拙ク紙質杉原様ノ陳品全篇同一讀シテ心歎極ラナ  
ク如何ニ楠公ノ明智モ未セ活乱ヲ為ス案ニ應仁様大ノ聲言ヲ  
引タルナド見ルニ堪ヘザルノ拙キ限リノ偽書ナリ次ニ信貴公ノ

兵書類ノ細字ノ早書ニシテ其筆法ハ確ク見下ル事難ク然モ一  
筆ニアラザルノ證アリ大坂北濱ナル小原竹香氏ノ持ル兵書モ此ノ  
比類ニテ信ノ難シ又西京二年氏不藏ナル詠二首懷紙ノ

左衛門尉橋正成

### 措春不駐

春ノ時をくわみやみむあやしくにたわて春の言をゆく

### 披書逢昔

筆の跡ふまゝとめはゆめはちのりみし世ふたも又いふ一紙  
此奇ニ名聞ヘザル公ニシテ殊ニ勝タル讀カタト世尊寺流筆法  
ヲ得タル書名ノナキニ不審ナリト先輩ノ説アリト畑城文老人ノ  
云ヘルモ宜ナリ神田孝平君ノ秘藏ニカル渡邊橋切庵と云ノ消  
息ハ伊勢ノ商人松井某ノ旧藏ニシテ名多ク幅ナド充分品ナク

ト疑フ人モ大ナラス非理法權天ノ慈徳ナドハ護トナシ難シ殊ニ  
敷ノ楠唐ノ書ハ宛末期ノ一紙如キハ兵庫廣嚴寺所傳ノ刻本  
モ世上ニアリテ皆人ノ知ル如ナリ西京ノ甲斐唐氏モ世同物アリ此  
余モ予ノ見ル如ク三紙アリ何レヲ信トモ偽ト辨別シ難キト雖強  
テ問ハヌク予ハ後人ノ筆ナリト思ヘリト答フベシ十種ヲ見ルハ十種  
ニシテ同筆ノ物ヲ見寸中ニ於テモ消息ノ花押如キハ凡ツ十五種  
モアリ近來南朝忠臣ノ遺墨愛顧スル人多キヨリ種々偽書出  
來シ八尾別當和田和泉守志實右衛門尉等ノ高名人死ノ  
消息ハ猶更ニ後人ノ手ニナレルモノ而已和河西列ノ社寺ニアルモ大  
凡ハ信ヲ置クニ難キ筆痕ナリニテ三井氏ノ首懷紙神田氏ノ消息  
ノ如キハマラス先輩ノ説ハ如何ニモアルハハハニ品ヲ以テ真ト為ス

一南都般若寺一切經ノ事

大和國大寺良坂般若寺ニ太平記ニ於テ世ニ知ラレタル大塔宮護良  
親王カ難ヲ大般若經ノ唐檀ニ避ケ給ヒレト云フ朱塗ノ大唐檀  
ヲ先年未大佛殿ノ博覽會場ニ出品シタリ之ヲ該寺ノ任職  
虎形高英師ニ此ノ經ヲ一見シタト請ヒタリ虎形氏曰大般若經  
ニ非ス一切經ナリ且其朱塗唐檀モ猶三合残リナリトテ史ヨリ  
一切經ヲ閱覽スレハ元ノ至正版ニシテ零帖八百五十余本アリ又  
此ノ以テ思福寺ノ白坊官ニ條家ヲ於テ同家ノ古記録ヲ一覽セシ  
ニ護良親王ヲ家カニ人ナリテ唐サシ其跡ヲ大凡ニ取圍マセシヨシ  
ヲ載セタリ世ノ書ヲ信スレハ般若寺經相ノ危難ハ慮ナリ總ニテ  
世ノ事ハ又ノ案ヲ出タルヤ必セリ

一 宋版歐陽文集の事

經籍訪古誌二曰歐陽文集宋槧本楓山官庫藏紹興中刊  
曾魯考異本板式字樣賤陋蓋坊刊也之ト託之卷數以下  
二闕ク殊ニ其刊刻ヲ紹興ト載ス甚數杜撰ニテ傳聞ヲ未見  
書ヲ託シタルヤ兼文先年板也ニ於テ得タル此集ハ妙覺寺常  
住日典七字朱書横文ナリ畧長サ六寸六分幅四三分左右双辺  
每半面十二行二十二字也首尾尤ノ如シ

歐陽文忠公集

五十卷

元祐六年六月十九日歐陽子諱脩字永叔号

六一居序臨江後學曾魯得之考異

澠寧五年秋七月男及發等編定

紹熙二年三月群人孫謙益校正

又卷之二十四曰

昔京兆捕提格中秋前縣人陳嬰允章校勘刊謬

此書五十卷ノ中十九卷廿一廿二廿三廿四廿五廿六廿七廿八  
四十九五十以上十二卷ヲ闕キ以下三十八卷ヲ存ス訪古誌ニ紹興ト託  
セシハ紹熙ノ誤リナリ

一 楠正行朝臣書蹟の事

楠正行朝臣ハ兵畧ニ長セシ、之ヲ不レ和歌ノ道ニ達シテ手跡ニ又  
見事ナル中ニ殊勝ニ傳ハサルハ伊勢松坂三井城ノ所藏石清水  
八幡宮ノ祈願文ニシテ書件イミシク奥ニ和歌アリ

石清のうき紀流との後、その著しふのうきついでに、  
次に吉野如意輪宮の廊下、許世の簇跡に書かれたる論を  
返すといひ、そのうき様を、好むいふを、いと、むか  
次に東系神田孝平氏、秘藏幅の端書に河内守正行トアリ  
ゆかりして、そのうきついでに、そのうきついでに、そのうきついでに、  
昔より中院内大臣通茂公の添歌アリ

花の色ふ深し、たりのたし、たりのたし、たりのたし、たりのたし、  
此上、書跡は正一キモノナリ、部外ニ見ル如く白紙丹ニ

考し、みし、源も、室と、城も、う、好む、ふ、民の、程、い、た、れ、ゆ、  
四條大納言隆次、大卿院一族、良等、連、暑、最、期、一、書、ノ、如、キ、右、  
等、ノ、手、ニ、必、セ、リ、吉野拾遺、及、南朝ノ史ニ載セ、し、私、奇、自、筆、ノ、  
懐紙、又、ハ、消息、類、マ、世、上、ニ、珍、藏、ス、ル、ハ、數、十、幅、見、ル、ニ、疑、フ、ヘ、キ、モ、ノ、  
而、ヒ、ミ、テ、後、人、ノ、偽、筆、ナ、リ、ミ、テ、信、ヲ、置、ク、ノ、書、蹟、ハ、ナ、シ

一大臣影画卷之事

大臣影ニ卷回一巻ニテアリ、シテ上下ニ分チシ物ニテ、豪信法印ノ畫  
ナリ、花山院在大臣家、忠公ニ初マリ、今出川右大臣兼季公ニ終ル  
八十人ノ肖像ナリ、近衛家ノ旧藏ニテ、至、極、ノ、能、画、タ、リ、此、中、武、家  
ニハ、太、政、大、臣、清、盛、小、松、内、大、臣、重、盛、八、嶋、内、大、臣、宗、盛、録、倉、右  
大臣實朝等、四人而已、予、正親町家ノ旧藏ヲ見ルニ、尤、奥、書、アリ  
大臣影、豪信法印筆也、録、深、思、筆、了、出、圖、外、了、花、折  
大臣八十人像、藏在陽明藤太閣之家、至、其、像、則、僧、豪  
信所畫、而其跋語未詳、其人也云、畫、様、字、體、一、照、原、本

榻寫者著色装幀二卷藏之於東武藏府

宝永六年十月十八日

此画卷今世上ニミ、寫シマレト轉々誤リ多ク其疎寫ニ至テハ衣冠  
帶劔ノ風俗ヲ見ルマテテ其相姿ヲ失ス不ク又其意氣信ノ事ニ  
洛西東梅津村長福寺ニ花園天皇法衣ノ尊影アリ中納言  
忠季卿ノ所銘世一幅ハ大和錦ニ載セ郊而大臣影ヲ偏セリ

一 洛東禪林寺ノ事

此ノ禪林寺ハ仁壽三年十月藤原關雄朝臣ノ宅ヲ以テ建立スル  
処弘法大師ノ上之真紹僧都ヲ開基トシ真言ノ名刹ナリシガ  
才十四世ノ任職珍海已講ハ畫名ノ高キ僧ナレカ法然上人ニ帰依シテ  
淨土宗トナレリ兼久年間堂壞テ修復シテ丹青ヲ極メタリシトゾ  
其比當寺ノ年譜ヲ閱見スルニ此ノ事共ヲ記セリ

天文十二年八月西三條右大臣公條公書當山縁起一表奉謝  
弘治三年五月招南京名畫喜多坊法眼琳賢圖大尊  
陀羅一鋪會下上座明空真鏡起月幽隆等戮カ點換西  
三條右大臣公條公祚名院殿記銘文今安永堂是也  
天正四年感得融通念佛縁起西卷表軸蜀江錦畫出佐光  
信筆者當時公家及將軍家也

慶長十二年大坂任人河村有母宗悦寄附古板竹大尊陀羅  
元和九年九月二日近衛三齋院殿書賜鎮祠歌仙六枚同年  
いそは扇風一双成ル尊初親王色紙扇風成ル

寛永十二年五月丹別並河志戸守入道曾建傳授堂安置

惠心筆曼陀羅

寛文五年六月當山縁起寫一卷筆者會下明空研雲也  
拈錄馬經奉納田券諺文事數多託載之レト今如何ナリニヤ  
笠岡中見觀本尊縁起事殊文ニ奉ク

一 鯨波屏風ノ事

西京沖池邊大宮西ノ北側ナル神泉苑ハ有名ナル内裡沖池  
沖歷代請雨ノ沖祈禱所也弘法大師ノ白蹟ナリ當寺什  
宝ニテ東寺ニ強リタル鯨波ノ屏風ト稱スル一雙ハ後柏原天皇ノ  
沖寄附ニテ狩野古法眼元信ノ畫保元平治合戦ノ圖ヲ能ク  
寫シタル屋宇建築ノ棟甲冑武具ノ製作武者ノ動靜女童ノ

衣服調度ノ類其比ノ事總リ撰寫シ關年武者ノ勢ニ實ニ名エテ  
心ヲ尽ミタル鯨波ノ若クモ揚ル斗ヲナリトテ斯クハ稱セシモノナルカ又  
寺町六角ナル拈言野寺ノ什物ニモ元信ノ筆鯨波ノ屏風畫及リ  
同ハ八島合戦ニテ同様ノ畫同タリ伯仲スベシ拈稱ハ俗ニ屏風  
中ヨリ若クテ發セシト云リ兩ニテ之ヲタビニ其關戰ノ勢ヲ賞スルカナシ  
ハ拈筆ニモ數雙ノ鯨波屏風アルベシ

序ニ云此地ノ人尾崎雅基那撰百人一首一夕話ノ中崇徳院ノ  
保元合戦ノ事繪ハ該箇中傑秀ノ畫ニテ則チ屏風ノ  
圖ヲ原本トナセシナリ

一 長曾我部越前親墳墓ノ事

泰川勝ノ子孫去別曾我部ニ長住シ以テ長曾我部ヲ氏トス  
太師左衛門能親八代宮内方卿元家八通覺世ノ孫去傳守  
元親ノ三男宮内方輔成親也嫡子孫三師信親ノ豊公西征ノ  
先鋒トシテ日別千代川ニ於テ鴻津義久ト戰ヒ戦死ス二男忠師  
治師親政ノ香川氏ヲ嗣ク依テ成親家督トシテ去佐ノ國守タリ  
慶長五年九月關ヶ原役西軍ニ共シ國ヲ降カレ京師ニ來リ東寺  
ノ候人蜷川某氏ノ家來トテ縁フルヲ以テ爰ニ拠リ大宮通九條慶  
賢門ノ前ナル家ヲ借リ名ヲ一夢ト改メ凡月ヲ樂シミ連歌ヲ耽ヒ  
徒然心ノ余リ近隣ノ小兒ニ書海ヲ學ビシメカ大坂ノ役起ルニ傳所  
司代板倉重臣買守ハ早クモ衆人ニ注意シ内命ヲ以テ近江ノ者共ニ其  
勤靜ヲ賞ヒシノ深ク非常ノ手配ヲナシ至タリシニ何ノ替リニナク出入ノ別  
ニ早見異ナラス一夕傳家ノ者共ヲ集メノ誕生日ヲ祝スルト社ト大ニ

酒宴ヲ催シ座敷ニ甲冑ヲ初メ種々珍器ヲ陳列シ未集ホセシ者  
ニ深ク酒ヲスシ沈醉セシヲ朝トシ自今モイタク醉ヒタリト自今ニ座敷ニ入ル  
近隣ノ者モ其座ニ皆ク坐卧シケルカ頃テ成親ニ一人ニテ裏ノ田圃ヨリ  
四塚ニ出ケル豫テ手紙ヲ如ク南側ナル藪中ヨリ三十人斗リノ家來共  
出來リ之カ牽キタル馬ニ歩乘リ鳥羽繩ヲ南へ走ラケル道ニ遠  
人數馳加リ小坂ノ橋邊ニテハ三百多人ノ同勢ト成リ淀ヨリ乘船シ  
テ遂ニ大坂ニ入城シタリケルガ京郊ニテハ翌朝ニ至リ出ヒ棧キニ逢ヒ  
タリシヲ殘念ニ思ヒ諸道具ノ類ハ關所ニナシタリ蜷川氏ニ是是強ク  
居タル器物ハ今ニ傳來モ存タナリ成親ニ冬陣ニサセタル戦切モ  
ナク元和元年五月河洲八尾ノ戦ヒニ武勇ヲ顯シ一旦東軍ヲ敗リ  
シモ同七日ニ彦根ノ砦ヨリ城外ニワリシヨリ其傷ヲ治シ延ヒ八幡山下  
園村ノ祠官某ノ家ニ遷ルタルモ粗ホ養養ヒテ傳來ヨリ其所ヲ三出同



疫神堂、例ニ隱レ長タルヲ捕ヘテニ條城外ノ柵ニ縛テ諸人凡  
物セシメテ所辱ヲ与ヘ遂ニ六條河原ニ於テ斬罪ニ処シ死骸ヲ下寺  
町長講堂ノ北隣蓮光寺ニ葬リ于今其墳墓アリ五尺有金ニ  
シテ石画ハ斤杖九曜ノ定紋ヲ刻シ長曾我部宮内右卿盛親ノ  
墓ト記ス當寺本堂東南西ニ地藏堂アリ坐像五尺ノ石地藏  
アリ弘法大師ノ作ニシテ六條河原旧斬罪場ニ安置アリル也ナリ當  
地ノ東南ニ六条河原ノ方レリ徳門氏執政中ノ墳墓ヲ以テ  
ハヤカリテヤ人モ知ラザリシカヤ、近比知ルルナレリ

一大河内秀元遺書ノ事

大河内茂元衛門后大膳大支源秀元ノ源ニ後賴政卿ノ末胤  
三洲ノ産ニシテ大久保氏ノ親族ナリ天性剛強不屈ノ英姿アリ初  
ノ徳川氏ニ忠勇ノ名ヲ顯シ後皆ニ送テ浪人シ小早川秀詮ニ仕  
朝鮮陣ニ軍監太田龍彈守一吉ニ從ヒ彼地ニ於テ高名數多  
ノ中サ蔚山籠城ニ殊ニ拔群ノ働キアリテ加藤清正モ感賞一方  
ナラズ大坂陣ニ井伊家ニ在テ奇切ヲ立ツ遂ニ山城國八幡ノ庄ニ  
所縁マツテ此所ニ隱遁シ老ヲ養ヒ茲ニ没シ又其子修理進秀連  
ニハ父秀元ノ生涯ノ軍功覺書及ヒ其外ノ記録類ヲ多ク其書  
授所清水ノ正福寺ニ納メ置タリ其書本ハ

- 一 松平物語 二冊 一 光録物語 三冊 一 系圖書 一冊
  - 一 朝鮮物語 二冊 一 先親物語 一冊 一 光録百首 一冊
  - 一 判 鏡 一冊 一 稻粕手鏡 三冊 二冊
- 總計十六冊也此内松平物語朝鮮物語ノ二部ハ伴信友ノ著

武邊叢書ニ收メ又刻本キテト比授スレハ全程相違アリ諸家略  
譜ハ大ニ參考ニ備スキ支アリ判鏡ハ徳川家大小名ノ花押也  
糟粕手鑑ハ是又豊臣徳川両家大小名ノ手簡ヲ集ムル知ニシテ  
マ文中ニ亦久秀連父子ノ書入アリ有名ナル陪臣ハ後藤又兵  
衛賴勝 普通諸軍記ハ墨本アリ然モ  
自筆ノ書ハ賴勝ト考スレ 小畑勲兵衛景憲庵原由右  
衛門馬場三仰左門松倉右近以下ノ勇士ノ書百數十通アリ文  
化年間相列小田原城主大久保忠實守大坂城代中一覽ニ入ニ支  
アリ是大久保家ノ書類多クアリ友アリ此時廣ヨリ本箱ヲ寄附シ  
テ蓋裏ニ事書ヲナシ置キタリ然ルニ世遺書ヲ如何ニテ取出シテ  
シ旧社人園村俊祐宗初ナル者所持シ其外正福寺ノ什宝ナトヲ辨  
ヒシ初リ予世書ヲ買得シ難波戦記ヲ増補セント欲セシヲ東系人  
ニ強テ懇望セラレテ譲与ニタルハ今更遺憾ナリ

一毛利三家風詠事

陸奥守兼大膳大夫贈從二位大江朝臣元就卿ハ回小身ヨリ軍  
馬ノ間ニ馳驅シテ家ヲ起シ朝夕兵畧ヨリ外餘暇ナルベキ凡推  
ノ道ニモ志シ深ク和奇ニ連歌ニ達シ詠草ニ卷アリ三条西宮隆  
公ノ序ニ紹巴法服、後叙ヲ加フ書モ又能クセリ斯ル故ニヤ其子息及  
ヒ一族ニモ書ヲ能クシ此道ニ妙ナル輩多クモ元龜天正年間戦鬪  
世界ニ任シ何ノ餘地アリテ此ノ數奇ヲ弄シタルヤ英傑ノタニニ感  
スルニ堪ヘズ今其二三ヲ茲ニ抄出ス

陸奥守大江元就

歳門  
三春 いつくより年のあぢき乃春を度たりてその色をみすらん  
梅の考ありくひすさそふ新福也

寄花 夷年之限う川なり春毎にたふせぬ花城のうらや  
中納言大江隆元 隆元 長男

秋 ときとほろりきり花の記斐杖のけてさく宿の庭

月すみて静けし川杖の海

吉川駿河守長原元春 元春 二男

古御 問来り人の及もそをそく八重葎ともまうそ宿の卯

是花の香や一丁の梅の花

小川中納言平隆景 元景 三男

まれば雪産の床の宿のてせをたつみ言り春の卯

因 中納言秀秋 秀秋 隆景の次男

時多 月さす空やまふも時をいさる雪の山ほろりさけ

若川治部右衛門元長 元長 長男

近懐 昔人の渡り来たり世の中我身をもとのまは徳を

毛利右衛門右衛門元康 元康 七男

花の雨りた川や幾多も朝の霞

若人治部兵衛元頼

古里ふさそお四の唐錦 池のつやめは春のうらや

花を根おのれいづの家路の卯

大庭加賀守賢景

石見道明さむも多きふとくさつらせめみられし

若介甲斐守相承元卿 若川藏人頼廣家嗣臣以下 和奇は多

可レト強き川琴ヶス

一 江源佐々貴正統之事

友人田中教忠氏の西系之間へ高き藏書家ナルカ三代實録ヲ初  
ノ佐々貴文庫ニ之印江源正統ノ四角ナリヲ押シ佐々貴二十八世  
氏憲ト墨書ノ書ヲ藉リ收藏セラルル事文按スルニ是ハ江源武鑑  
大系同和論語淺井日記關ヶ原軍託勢別軍託等ヲ偽撰  
セシ佐々木氏卿ノ姓氏ヲ偽リ銘リ其上永神任マリス越々中野  
大柳ヲ往セシヨリ不司代牧野豊前守ノ尋問ヲ被リシ姫来リ烈祖  
成蹟ニモ徂載セシ如ク佐々木ノ正統嫡流ハ氏徇ヲ絶ヘ其房定  
頼ノ降信ニテ家ヲ嗣キ其子義賢其子義弼ト相續セリ然ル氏  
卿在者ハ江西ノ氏法田某ノ子ナルカ幼年歳山ニ登リ國史志ニシテ  
ハレ遂ニ身分ヲ高クセント氏徇ノ子義實其子義秀其子義卿ト

ト三世未生ノ人ヲ作り世ヲ欺キ自分義卿ノ子ト名乗リ佐々木軍  
託ト号スル信書ヲ著シ猶モ其子氏憲ト稱スル者モ形如ク  
江源正統佐々貴二十八世等ノ朱カク用ヒ今ヨリ猶殘リテ人ヲ迷  
ハシムルハ愚ムヘキ事業ナラズヤ坂ノ東迎寺ノ什物ニ佐々貴管領  
義卿所持ノ硯アリ笑ス

一 長俊房林照之事

慶長五年九月十五日濃兵關ヶ原ノ一戦關東方ノ大勝利ナリ  
大垣城ニアリシ秋月長門守種長高橋右近大丈元種尾中ハ反  
覆シテ熊谷内藏今垣足利泉守木村惣左衛門又子ヲ討テリ  
徳川氏ニ仕ヘテ社稷ヲ全クス高橋元種ノ四男某氏又從ヒ出陣

世言及志ヲ諫ノ豊臣氏ト安危ヲ共ニセント欲スレト又及ニ救メ  
一野置カ及不爰ヨリ退去モ石清水ハ幡ノ別當秀清法下ノ伯  
母ノ聲ナルヲ以テ一身ヲ於所ニ隱シ世ノ故行ヲ見ルニ豊臣氏恩  
顧ノ大名多ク徳川氏ニ媚ニ遊ニ秀頼ヲ亡シケルニ慷慨ノ義氣ヲ  
發スルモカノ及サルヲ歎キ後襲ニテ佛門ニ入り善法寺秀清法下  
ノ弟ト稱シ長俊房林照ト改メ園村法園寺ノ住職トナリ寛文七  
年十一月三日病ヲ以テ卒ス今ニ墓アリ且ツ其平素和歌ヲ好ミタリ  
シト見ヘ朗詠集ノ裏書ニモ自詠アリ申シモ山城ヨリ東國ノ士人ハ  
皆逆臣悪人ノミナリナトト記シタルモアリ歌ハ至極拙シ徳川氏創業ノ  
盛世ヨリ隱レタルモ蓋シ於此ハ八幡ノ神領ニ守護不入ノ傷ヲタルト  
善法寺秀清カ別當ノ権威アルトヲ以テ人モ其ノ縁ヲ知ラカリシ  
ト見エ殊ニ法園寺ノ歴代住職ノ記ニモ高橋右近大夫ノ息タル事ヲ

記シマラサレト維新後善法寺及ニ各坊ノ古文書類ノ出タルト秋月  
家ヨリ系譜ノ一取調ニ照會アリトヲ以テ長俊房ノ履歴ヲ知レシ也  
又秀清法下ノ妻ハ秋月種實ノ末女ニ種長元種ノ妹ナリ元和五  
年十月二日卒ス閑長永安大婦ト法諱ニテ法園寺ニ葬リ今  
モ墓所アリ序ニ云大坂落城ノ砌ヲ狩野山樂ハ豊臣氏恩顧ノ者ニ  
笠尾城セシモ没落ノ餘隙ノ道ニ出テ是又身ヲ於所ニ隱シ滝本房  
昭乗公羽ノ画所トナリ此奎ニモ武名ヲ知ラタルモノニシテ深ク此地ニ潛ミ  
時常ヲ侍居タリシモ機會ヲ得ス遊ニ没セシモ不サヨシニ聞ク

一 武内省稱ノ古像ノ事

東寺護法殿 行最ノ裏ニ安置スル処、武内大臣ノ木像ハ至極ノ古作

ニテ像ノ禪形ノ像ト稱スレト全ク官服ノ柄摺セシテマ、古作ニ凡  
ル知ナリ其姿ハ左ノ如シ

亮祐信正寄附  
黄紙ノ袋入り



纏網緑ノ袴ベリ  
トコ不付サ内ナシ

